

もり むら いち ざ え もん

森村市左衛門

私利私欲を捨て独立自営に当たる

—森村グループの礎を築いた日本陶器の設立—



森村市左衛門(1839～1919)

出典：『日本陶器七十年史』

■生い立ち

森村家は代々市左衛門を襲名し、初代・市左衛門は遠州森村から、江戸に出て京橋で旗本屋敷に出入りする武具・馬具商を営んできた。

六代目・森村市左衛門(幼名:市太郎)は1839(天保10)年に京橋で生まれた。7歳で母を失い、祖父が残した莫大な借金のため見習い奉公に出て家計を助け修業を積み、16歳になり父とともに森村家を復活させた。その矢先、安政の江戸地震、日本橋の大火など未曾有の災害に見舞われ、また、裸一貫からの出発となった。

■森村組の設立

1859(安政6)年、横浜が開港され外国商人と自由に取引ができるようになると、森村市左衛門は非凡な商才を発揮し、「森村グループ」発祥の礎を築いた。このころ森村は中津藩の御用商人となり、福沢諭吉と出会い、幕府から日米修好通商条約批准のため使節団の土産物、服装、金貨の両替などを命じられた。この時、「質の悪いメキシコの銀貨と日本の金貨、銀貨とを相手の言いなりに交換する事は、日本の金貨が減るばかりで困ったものだ」と福沢諭吉に相談すると「我国の商品を輸出して外貨を獲得する以外に方法がなかろう」と説かれた。そして、自分がその先駆者となるため1876(明治9)年に貿易商社「森村組」を設立、雑貨貿易商を始めた。

■ニューヨークに「森村ブラザーズ」を開設

海外貿易を決意した森村市左衛門は、弟の豊を慶応義塾に入学させ卒業後、渡米させた。2年後の1878(明治11)年にニューヨークで「モリムラブラザーズ」を開設。日本の骨とう品、陶器、雑貨から陶磁器へと輸出を広げていき、森村グループの基礎を築いた。

1890(明治23)年、森村はパリ万国博覧会に豊を連れて渡仏し、この視察旅行中、欧州の陶磁器生産技術が優れていることを知り、白磁陶磁器の国産化に取り組むきっかけとなった。

■大倉孫兵衛の参画

森村市左衛門の妹婿に当たる大倉孫兵衛は、私利私欲を捨て国益を第一に考える森村の思想に深



ニューヨークのモリムラ・ブラザーズの店

出典：『日本陶器七十年史』

く共鳴し、当初から森村組への参画、さらに長男大倉和親とともに1904(明治37)年に日本陶器合名会社の設立に参画した。

■森村学園などのメセナ活動

1910(明治43)年、森村市左衛門は、自邸内に私立南高輪尋常小学校・同幼稚園を創立、建学精神「独立自営」を教育理念として、現在の横浜・長津田に学校法人森村学園として開校している。その他、1901(明治34)年に財団法人森村豊明会を設立し、教育事業や社会事業に多額の寄付を行った。

(寺沢安正)



製品見本と画帳：インポートオーダーの販売施策

(明治30年代)

出典：『日本陶器七十年史』